

玉城肇 (おたまき) 評論家、社會學者。明治二十五年十一月(二十五日)宮城縣生乳、昭和五十五年一月十一日歿(一九二八年)。大正十五年東京帝國大學法文學部卒。企畫院囑託、東亞研究所調査官、東京經濟大學講師等を経、東北學院大學教授、愛知大學教授を歴任。民主主義科學者協會、法社會學會會員。

譯書：「國際消費組合運動・一九二一年」(城西消費組合・大塚金之助共譯、昭和七年五月十五日日本無産者消費組合聯盟・教育部、義文閣發賣)、M・ネリソン著「時計の歴史」(昭和十七年十月、二百頁書房)、ハリス著「日本滞在記」(今里止次共譯、上巻・昭和十九年六月、二十八日岩波書店「岩波文庫」)、「パルリ」 提督「日本遠征記」全四冊(上屋高桂共譯、一・昭和二十二年八月十五日、二・十月十五日、三・二十八日九月二十五日、四・三十二年五月二十五日岩波書店「岩波文庫」)等。著書：「家族制度の歴史」(昭和二十一年七月、二百頁伊藤書店「人民群書」)、「新しき愛情」(総合生活文化研究所編、昭和二十二年二月十五日雄鷄社「雄鷄新書」)、「明治教育史」(昭和二十四年一月、二十八日季節社)、「日本家族制度の批判―半封建的家族制度の本質」(昭和二十四年四月十五日民友社)、「愛と憎しみとクレープスカヤ(レーニン夫人)の生涯」(昭和二十四年九月一日寺島書店)、「フエミニズムの歴史」(昭和二十八年十一月十五日理論社)等。

